

令和2年1月から令和2年12月までの火災件数は32件で、建物火災16件（うち住宅火災11件）、車両火災10件、その他の火災6件が発生し、損害額は64,168千円でした。原因別では、たばこ5件、配線器具、灯火、放火・放火の疑いが各2件、こんろ、ストーブ、電気装置、電灯・電話等の配線、マッチ・ライター、電気機器、排気管、火遊び、溶接機・切断機が各1件、その他6件、不明6件で、死者1名、負傷者が4名でした。

現在、住宅火災の発生防止や被害軽減を目的に、住宅用火災警報器の全戸設置を目標としており、防火指導や広報活動を強く推進しています。

令和2年1月から令和2年12月までの救急出動は3,242件、1日当たりの平均出動は約8.9件で、急病が60.6%を占め、次いで一般負傷、転院搬送の順となり、2,614人の患者を搬送しました。

千歳市では、中高層化する建築物の火災をはじめ、航空機災害、鉄道事故、高速道路等における多重衝突事故など様々な災害の発生が危惧されています。このため、指揮車及び支援車の導入や公設消火栓等の更新を行うなど消防施設や装備の計画的な整備・更新を継続し、現在、1署5出張所と1消防団8分団により24時間体制で災害に備えています。

また、緊急消防援助隊に登録し、平成23年3月に発生した東日本大震災では13隊29人の消防隊員を宮城県へ派遣しました。今後も各種災害を想定した消防隊員の技術及び活動能力向上に努めながら、関係機関との連携を図っていきます。

救急業務については、12誘導心電図伝送システムを搭載した2台を含む高規格救急自動車4台を配備するとともに、救命処置範囲の拡大に伴い、気管挿管、薬剤投与、処置拡大2行為などができる救急救命士を配置し、高度救命処置を行っています。平成25年4月から一刻を争う救命や幹線道路における事故現場の安全確保が必要な場合などでは、消防車と救急車が同時に出動する救急活動を展開し、令和2年1月から令和2年12月までの出動件数は243件となっています。

また、A E Dを使用した心肺停止者に対する救命処置等を指導する救命講習を毎年開催し、応急手当の普及啓発活動による救命率向上に力を注いでいます。

千歳市には常時観測火山である樽前山や、直下型地震の原因となる石狩低地東縁断層帯が存在します。また、近年は、地震を始め、台風、集中豪雨など自然災害は頻発・激甚化しています。市は災害等に強いまちづくり・ひとづくりのため、毎年関係機関と連携した防災訓練等を実施するとともに、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、指定避難所にマスク、消毒液、パーテーションなどの感染防止対策用品を配備したほか、発電機の追加配備を行うなど、地域防災・減災対策のさらなる充実に努めています。

また、防災の拠点施設となる防災学習交流施設では、「学ぶ・体験する・備える」をキーワードに防災・減災に対する意識向上に取り組んでおり令和2年度は18,078人の利用がありました。

千歳警察署は、市内にある本署、5つの交番、2つの駐在所と空港警備派出所のほか、恵庭市内に3交番・1駐在所を置き、地域の安全を維持するため、警備体制の充実・強化を図っています。

交通安全は、市民一人ひとりの切実な願いですが、依然として交通事故が後を絶ちません。市内では令和2年1月から令和2年12月までに173件の交通事故が発生し、2人の死亡者と213人の負傷者が出ました。千歳市は、交通安全教育を実施するとともに、交通マナー等の普及啓発活動を行い、交通安全に対する意識の向上に努めています。

市内に所在する陸上及び航空自衛隊の各部隊は災害発生時における様々な災害派遣活動を担っています。また、第1管区海上保安本部の千歳航空基地は海上における警備救難及び200海里海洋秩序維持のほか、流氷観測などを行い、海上の安全と治安の確保を図っています。

164 消防職員数と消防車等設備の推移

年	消 防 署 (本部を含む)													消 防 団						
	職 員 数	自 動 車 台 数											無 線 (基)	分 団 数	団 員 数	自動車台数			可 搬 式 小 型 ポ ン プ	
		タンク車	ポンプ車	化学車	屈折はしご車	はしご車	指揮車	広報車	救助工作車	資機材搬送車	救急車	大型水槽車				人員輸送車	タンク車	ポンプ車		積載車
29	131	6	1	1	—	1	1	8	1	1	4	1	1	148	8	176	2	2	4	5
30	130	6	1	1	—	1	1	8	1	1	4	1	1	148	8	179	2	2	4	5
元	131	6	1	1	—	1	1	8	1	1	4	1	1	148	8	172	2	2	4	5
2	131	6	1	1	—	1	1	7	1	1	4	1	1	148	8	175	2	2	4	6
3	131	6	1	1	—	1	1	6	1	1	4	1	1	148	8	174	2	2	4	6

1 各年4月1日現在
消防本部総務課・警防課

165 消防水利

(1) 施設数

総 数	消 火 栓				貯水槽 (40 t 以上)			用 水 路 (マンホール)	池・その他
	計	公 設		私 設	計	公 設	私 設		
		双 口	単 口						
1,689	1,402	165	982	255	144	49	95	141	—

1 令和2年12月31日現在
消防本部警防課

(2) 充足状況

水 利	現 有 数	A	685基	ポ ン プ	区 分	総 数	内 訳						
							常 備	非常備					
							基 準 数	B	823基	現有台数C (台)	11	7	4
							充足率	$A/B \times 100$	83.2%	基準台数D (台)	12	7	5
			充足率 $C/D \times 100$ (%)	91.7	100	80							

1 平成31年4月1日現在

2 水利の現有数は、消防水利の基準に適合した消火栓数である

3 ポンプ現有台数、基準台数、充足率は消防力の整備指針に基づき算出
消防本部総務課・警防課

166 火災発生件数の推移

年・月	件数	焼 損 面 積		焼 損 棟 数	り 災 数		死 傷 者 数		損害見積額 (千円)
		建物(m ²)	林野(a)		世帯数	人員	死 者	傷 者	
28年	22	1,190	—	16	12	23	1	3	135,521
29年	23	431	—	18	11	21	2	—	19,744
30年	23	595	46	18	4	5	1	2	21,097
元年	28	583	56	30	13	32	0	3	59,333
2年	32	2,101	—	17	13	26	1	4	64,168
1月	2	110	—	2	3	4	—	1	10,070
2月	5	1,435	—	4	1	2	—	1	11,706
3月	1	1	—	1	—	—	—	—	2,265
4月	1	—	—	—	—	—	—	—	4
5月	1	—	—	—	—	—	—	—	—
6月	2	—	—	—	—	—	—	—	560
7月	4	—	—	1	1	3	—	—	2,634
8月	5	142	—	3	3	6	—	2	17,164
9月	1	—	—	1	1	3	—	—	302
10月	3	297	—	2	—	—	—	—	3,162
11月	1	111	—	1	1	1	1	—	14,410
12月	6	5	—	2	3	7	—	—	1,891

消防本部予防課

167 原因別火災発生件数（令和2年）

順 位	原 因	件 数	順 位	原 因	件 数
1	たばこ	5	3	マッチ・ライター	1
2	配線器具	2	3	電気機器	1
2	灯火	2	3	排気管	1
2	放火・放火の疑い	2	3	火遊び	1
3	こんろ	1	3	溶接機・切断機	1
3	ストーブ	1	—	その他	6
3	電気装置	1	—	不明	6
3	電灯・電話等の配線	1			

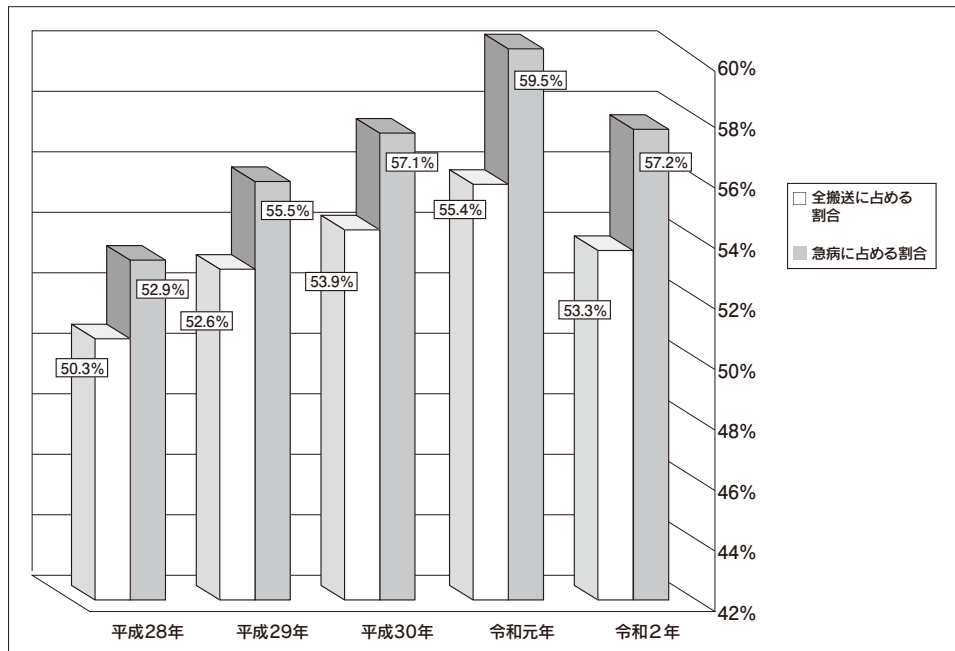
消防本部予防課

168 救急出動件数等の推移

年	総件数	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	搬送人員
28	3,349	25	—	—	217	26	10	516	25	33	2,159	338	2,676
29	3,610	19	1	4	237	47	15	538	21	50	2,237	441	2,858
30	3,737	15	5	13	228	46	24	500	19	47	2,331	509	2,997
元	3,760	18	0	1	232	31	15	547	10	44	2,372	490	3,060
2	3,242	22	0	4	263	35	9	527	15	43	1,966	418	2,614

消防署救急課

高齢者（65歳以上）の搬送割合の推移



消防署救急課

169 刑法犯罪発生の推移

区 分	28 年	29 年	30 年	元 年	2 年
総 数	1,158	1,118	907	939	681
凶 悪 犯	2	2	8	7	3
殺 人	—	—	—	—	—
強 盗	—	—	—	—	—
放 火	—	—	—	—	—
強 姦	—	—	—	—	—
粗 暴 犯	63	92	101	115	105
暴 行	—	—	—	—	—
傷 害	—	—	—	—	—
脅 迫	—	—	—	—	—
恐 喝	—	—	—	—	—
窃 盗 犯	816	762	593	664	461
知 能 犯	43	42	67	26	24
詐 欺	—	—	—	—	—
横 領	—	—	—	—	—
汚 職	—	—	—	—	—
偽 造	—	—	—	—	—
背 任	—	—	—	—	—
そ の 他	—	—	—	—	—
風 俗 犯	44	35	20	15	8
そ の 他	190	185	118	112	80

1 千歳警察署管内（千歳市・恵庭市）の件数
北海道札幌方面千歳警察署

170 交通安全

(1) 年・月別発生状況の推移

年・月	発生件数	死亡者	負傷者
28年	169	2	189
29年	173	2	186
30年	170	1	185
元年	230	1	262
2年	173	2	213
1月	12	—	17
2月	15	—	17
3月	16	—	18
4月	15	—	18
5月	9	1	10
6月	7	—	9
7月	18	—	25
8月	18	—	24
9月	11	—	12
10月	22	—	28
11月	17	—	19
12月	13	1	16

1 千歳市内における件数（高速道を除く）
北海道札幌方面千歳警察署

(2) 路線別発生状況（令和2年）

路 線	発生件数	死亡者	負傷者
総 数	173	2	213
国 道 3 6 号	26	—	37
そ の 他 の 国 道	9	1	10
道道支笏湖公園線	6	—	7
そ の 他 の 道 道	34	—	48
市道・その他道路	98	1	111

1 千歳市内における件数（高速道を除く）
北海道札幌方面千歳警察署

(3) 交通安全教育施設（交通公園）

所在地 花園1丁目6番1号

面積 20,625.08㎡

主要施設 管理棟 定周式信号機（1交差点） 押しボタン式信号機（1か所）

開 場 昭和53年10月20日

開設期間 毎年5月1日から10月31日まで

ただし、毎週月曜日は休園日（月曜日が国民の祝日又は振替休日に当たるときはその翌日）

利用状況の推移

年度	総 数	幼 児	小 学 生	一 般	団 体
28	19,878	5,401	5,262	7,434	1,781
29	20,071	5,381	5,277	7,745	1,668
30	16,830	5,388	3,583	6,810	1,049
元	18,792	5,378	4,598	6,830	1,986
2	4,423	1,611	729	1,992	91

1 一般に中学生を含む
市民生活課

171 非行少年等の推移

区 分		28 年	29 年	30 年	元 年	2 年
総 数		462	493	455	396	161
非 行 少 年	刑法犯	45	36	14	21	24
	少年	7	9	7	14	18
	犯罪少年					
	触法少年					
	小 計	52	45	21	35	42
特別法少年	6	4	3	4	—	
ぐ 犯 少 年	—	—	—	1	—	
合 計		58	49	24	40	42
不良行為少年		404	444	431	356	119

1 千歳警察署管内（千歳市・恵庭市）の件数
北海道札幌方面千歳警察署

172 防災学習交流施設

(1) 施設概要

所在地 北信濃631番地の11 外

敷地総面積 8.4ha

主要施設 防災学習交流センター「そなえーる」（展示・体験コーナー等） 防災訓練広場 学びの広場（消火体験・救出体験） 防災の森（野営生活訓練広場・サバイバル広場・河川災害訓練広場）

〔防災学習交流センター「そなえーる」〕

構造 S造及びRC造の併用構造 地上3階塔屋1階

面積 建築1,443.81㎡ 延床2,037.19㎡

開館 平成22年4月24日

防災学習交流施設

(2) 利用状況の推移

年 度	総 数	そなえーる・学びの広場利用者数				防災の森利用者数	
		見学・体験	有料施設	訓練	自主事業	宿泊	日帰り
28	39,526	14,289	4,460	5,036	1,031	1,916	12,794
29	41,891	14,592	4,561	5,378	1,416	2,822	13,122
30	36,063	13,142	4,154	3,639	1,607	2,669	10,852
元	38,345	12,350	3,752	5,668	1,153	3,396	12,026
2	18,078	3,401	3,466	1,115	580	2,524	6,992

防災学習交流施設



防災学習交流施設（そなえーる）